

令和6年度 学区等における地域防災力向上事業

実施報告書



令和6年12月

瀬戸内市総務部危機管理課

目 次

1 事業の目的	p. 1
2 実施日程	p. 1
3 実施結果	
第1回『避難所運営を円滑に進めるために ～自主防災組織の役割と活動について～』	p. 2
第2回『どうする!!わたしたちの避難所 ～長船中学校での避難所運営を考えよう～』	p. 4
第3回『避難所運営訓練』(瀬戸内市総合防災訓練)	p. 7
4 まとめ	p. 11
「暫定版レイアウト」	p. 12

1 事業の目的

大規模災害が発生した場合、市内の広域にわたって被害の発生が想定されています。特に、学校等の公共施設には多くの住民が避難し、混乱の中で長期間の避難生活を送ることが予想されるため、平常時のうちから学区等の単位において自主防災活動を展開し、顔の見える関係づくりに努めるとともに、住民が避難所運営を主体的に実施できるような体制を整備する必要があります。

そこで、令和6年度は長船町国府地区を対象として「学区等における地域防災力向上事業」を実施し、自治会・自主防災組織のほか、福祉会、地区社協、消防団、国府小学校、長船中学校、学校運営協議会、地域学校協働本部等、幅広い住民に対して参加を呼びかけ、避難所運営に関する研修・訓練を実施しました。

2 実施日程

令和6年11月17日(日)に長船中学校で開催する瀬戸内市総合防災訓練において、住民主体の避難所運営訓練を実施することを目標として、事前に避難所運営に関する研修会を2回実施しました。

日時	タイトル
令和6年8月3日(土) 10:00~12:00	第1回 研修会 『避難所運営を円滑に進めるために ~自主防災組織の役割と活動について~』
令和6年9月28日(土) 9:00~12:00	第2回 研修会 『どうする!!わたしたちの避難所 ~長船中学校での避難所運営を考えよう~』
令和6年11月17日(日) 9:50~11:05	第3回 防災訓練 『避難所運営訓練』(瀬戸内市総合防災訓練)

国府地区の避難所運営を考えよう!

令和6年度学区等における地域防災力向上事業

過去の災害の教訓から、行政主催の災害対応では限界があり、住民主体の防災対策を進めていく必要があると書かれています。特に、避難所には様々な立場からたたくさんの方が避難し共同生活を営むため、在来、行政、ボランティアなどが増え、課題も増え、対応が求められます。そこで、令和6年度は国府地区のみならず、国府地区について学びます。瀬戸内中で大規模災害が発生した場合は、国府地区ではどのように避難所運営をしていけば良いのか、みんなで一緒に考えていきましょう!

第1回 防災研修会
日時: 令和6年8月3日(土) 10時~12時
場所: ゆめトピア長船 1階 健康スタジオ
定員: 60名 参加費: 無料

第2回 避難所DIG
日時: 令和6年9月28日(土) 9時~12時
場所: ゆめトピア長船 2階 夢いっぱいホール
定員: 60名 参加費: 無料

第3回 避難所運営訓練
日時: 令和6年11月17日(日) 9時~12時(予定)
場所: 長船中学校 体育館

事業周知用チラシ

国府地区の避難所運営を考えよう! (令和6年度学区等における地域防災力向上事業) 第2回

どうする!! わたしたちの避難所
~長船中学校での避難所運営を考えよう~

過去の災害時に発生した様々な課題

わたしたちの避難所は、わたしたちが考えよう。

- ブライバシーの欠如**
・仕切りのない雑居状態、周りの目が気になった。
・音替え、授乳、洗濯物干しなど専用スペースがなかった。
- 暴力や犯罪**
・性暴力、児童虐待、DVなどの事件が発生した。
- 運営体制の課題**
・避難所運営委員の役員が男性ばかりで、女性の子育てや、下着、生理用品などの物資に関する相談がしづらかった。
- 災害関連死**
・感染症拡大や精神的なショック、エコノミクス症候群などにより要配慮者が多く発生した。

市では、令和6年11月17日(日)に長船中学校での実施を予定している市総合防災訓練に向けて、国府地区住民の方を対象とした研修会を2回実施します。今回は第2回の取り組みとして、『どうする!!わたしたちの避難所~長船中学校での避難所運営を考えよう~』を開催します。

長船中学校での避難所運営をより安全安心な場所にするために、国府地区の皆さんの力が必要です!
みんなで一緒に考えましょう!

令和6年 **9月28日(土) 9時~12時**
(8時30分から受付開始)

場所: ゆめトピア長船 2階 夢いっぱいホール

講師: どうする!!わたしたちの避難所 ~長船中学校での避難所運営を考えよう~
瀬本浩一氏 岩本憲治氏

定員: 60名 (※定員に達し次第、申し込みをストップいたします)

対象: 国府地区在住の方(小学4年生以上から参加可)
・避難所運営委員(仮)として参加希望の方
・避難生活支援リーダー/サポーター、防災士の為、など

参加費: 無料

申込: Webまたはメール、FAX

- Web申込の場合
右のQRコードを → 読み取ってください
- メール、FAX申込の場合
「氏名」「住所」「自治会名」「電話番号」「年代」氏ご記入のうえ、危機管理課までお申し込みください。

締切: 9月24日(火)まで

どんなことをするの?
長船中学校での避難所運営について、図面などを使いながらグループワークで考えます。
*子どもから大人まで、様々な立場の人の意見が必要です!

【お問い合わせ・お申込み先】 瀬戸内市総務部危機管理課
TEL:0869-22-3904 FAX:0869-22-3299 E-mail:kikikanni@city.setouchi.lg.jp

第2回 研修会 周知用チラシ

3 実施結果

●第1回 『避難所運営を円滑に進めるために ～自主防災組織の役割と活動について～』

(1)日時 令和6年8月3日(土) 10:00～12:00

(2)場所 ゆめトピア長船 1階 健康スタジオ

(3)参加者数 56名

(4)講師 山口大学大学院 創成科学研究科 准教授／瀬戸内市市政戦略アドバイザー 瀧本浩一 氏

(5)内容

- ・はじめに、市危機管理課から事業の目的やスケジュール等について説明しました。
- ・次に、瀧本准教授から、①各家庭における日頃の備え(自助)の重要性、②自主防災組織による防災・減災活動(共助)の考え方、③避難所で発生する課題や環境づくりのポイント、などについて説明がありました。

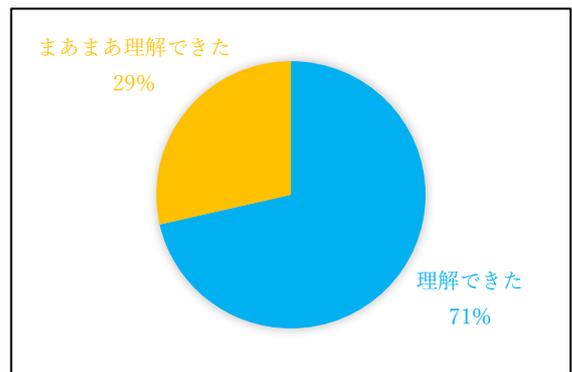


(6)アンケート結果

1. 本日の研修会の内容は理解できましたか？

(1つ選択)

- 理解できた 35名
- まあまあ理解できた 14名
- あまり理解できなかった 0名
- 理解できなかった 0名



【理由】

- ・とても分かりやすい説明でした。自主防災活動が大事なのがよく分かりました。
- ・日頃の認識、備えの重要性の再確認ができました。
- ・日頃(平時)における防災対策の重要性について感じさせられました。まずやれることから取り組みたいと思いました。
- ・災害時の備え等について、障害物競走に例えられた話がよく理解できました。
- ・避難所の役割と課題についてよく理解できました。
- ・災害時の事前の準備が避難することに対して非常に大切であること、また避難所での対応が大事であることを詳しく説明していただき理解できました。
- ・過去の災害事例を踏まえた内容、説明でよく理解ができて良かったです。不安になりました。災害について考え、準備しようと思います。

2. 避難所運営についてもっと知りたいことがあればお書きください。

- ・避難所内のゾーニングや、ペット避難者の受け入れについて考えたいと思います。
- ・設置のタイミングや備蓄品の数や場所等、起きた時にどこに取りに行くかなど知りたいです。
- ・避難所をより良い環境にできるよう事前に備えておくことは何か考えたいと思います。
- ・避難所の開設や避難者の受け入れにあたっては、指揮系統を整えておくことが重要だと思います。後手に回ると收拾がつかなくなってしまうので、事前に自主防災会やその他の団体等が役割を果たせるような定期的な会議が必要だと思います。
- ・避難所の運営は自治会と行政が協力して運営しなければならないと思います。マニュアルのようなものがあれば提示してはどうでしょうか(避難所開設からの流れを詳しく)。
- ・災害の違いによっても異なりますが、避難所として最低限整備しないといけない用品(備品)。
- ・避難所で供給される食事について、南海トラフ地震による被害は広範囲に及ぶと聞いていますが、食事の供給が間に合うかどうか不安です。備蓄等があれば知りたいです。
- ・学区での組織、体制づくり、指揮系統や役割分担について考えたいです。
- ・災害時の被災者への広報だけでなく、その他の人への広報についてはどうすべきかを考えなければならないのかもしれませんが。避難所は敷居が高いという意識があるように思います。

3. その他意見、感想等ありましたらお書きください。

- ・災害の怖さ、避難所の大変さを痛感しました。
- ・他の地区でも順次開催してもらいたいです。
- ・地域防災の必要性を感じました。まずは足元から防災に取り組んでいきたいと思います。
- ・大変参考になりました。引き続きこのような研修の開催をお願いいたします。
- ・避難所運営について、開設から運営までたくさんの課題があることが分かりました。
- ・市と地域との連携強化が絶対条件であり、自主防災組織の必要性を新しい自治会にも理解してもらう必要があると思います。また、自治会として防災委員を選任するなど、学区内で協力して自主防災活動を推進すべきだと思います。
- ・自治会、自主防災会の会長の参加が少ないように思いました。何か起こった時に困ると思います。
- ・過去の災害時における日本の避難所の環境が悪いことが分かりましたが、海外の避難所はどのようなものなのでしょうか。なぜ、日本の避難所は海外のようにならないのでしょうか。
- ・トイレ対策が重要だと思いました。
- ・国府地区の地理的条件も考慮した検討が必要だと感じました。

●第2回『どうする!!わたしたちの避難所 ～長船中学校での避難所運営を考えよう～』

(1)日時 令和6年9月28日(土) 9:00～12:00

(2)場所 ゆめトピア長船 2階 夢いっぱいホール

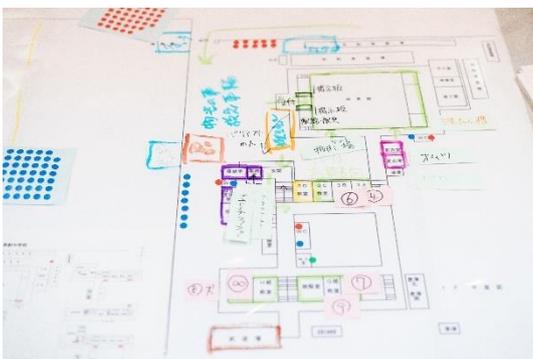
(3)参加者数 55名

(4)講師 山口大学大学院 創成科学研究科 准教授／瀬戸内市市政戦略アドバイザー 瀧本浩一 氏
減災研究会 岩本憲治 氏

(5)内容 ・前半は、瀧本准教授から避難所運営における課題について、「居」(避難所のレイアウトとゾーニングの問題)、「食」(食事の問題)、「什」(設備、備品の問題)の観点から説明がありました。また、過去の災害を踏まえて、災害関連死の防止や女性等に配慮した環境づくり(安全性の確保、運営負担の平等化、相談・サポート体制の整備など)についても説明がありました。



・後半は、グループで長船中学校での避難所運営について検討しました。住民が施設図を用いて避難者の受け入れやレイアウト等について考える取り組みは、市では初めての試みでした。



- ・本研修会では、小さな子ども連れでも参加できるよう、会場内にプレイスペースを設置しました。実際の災害時においても、中長期的な避難生活を送るうえで様々な配慮が必要となります。防災も含めた普段の地域活動から、誰もが安心して参加できるような配慮や工夫をすることが大切です。

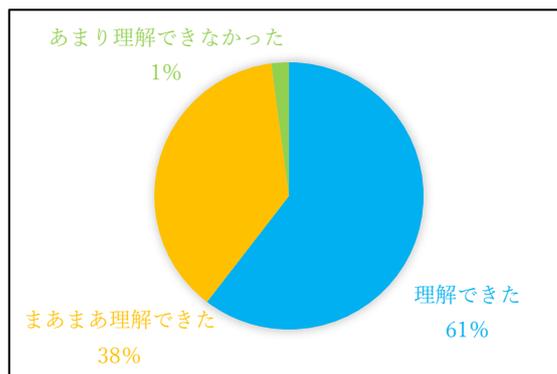


(6)アンケート結果

1. 本日の研修会の内容は理解できましたか？

(1つ選択)

- 理解できた 29名
- まあまあ理解できた 18名
- あまり理解できなかった 1名
- 理解できなかった 0名



【理由】

- ・実際に自分が避難する場所について、色々な意見を聞きイメージを掴むことができました。
- ・具体的にグループで意見を出し合いながら付せん紙を貼ったり記入したりして、避難所の設営を考えることができ良かったです。
- ・ものすごく勉強になったと同時に恐怖も感じました。体育館に行ったことがないので訓練に期待しています。
- ・避難所のレイアウト等について、見方や考え方を変えながら色々と検討することができました。
- ・行政だけではなく、住民自らがやるべきであることが知れただけでも意味のある研修でした。
- ・地域から避難してきてからの動きについて、まだわからない部分があります。
- ・普段、災害時のことなど考える機会がないので、実際に必要な備えや動きについて真剣に考えることができ良かったです。
- ・学校ではこのように本格的に学んだり考えたりすることがないので、とてもいい学びになりました。
- ・大規模な災害や避難所運営については現実味がなくきちんと考えたことがなかったので、具体例を挙げて話してくださり、自分の中でも考えることができました。
- ・避難所開設については今までも何度か学んだことがありましたが、その都度自分の考えも変わるので、悩むところが多いです。まだまだ課題が多いと感じました。
- ・自分一人では思いつかなかった問題点について、年代の違った参加者の方から意見を聞くことができ大変参考になりました。

2. 防災面で、国府地区としてやるべきこと・やってみたいことについて自由にお書きください。

- ・まずは国府地区全体での組織・体制づくりが必要だと思います。あらかじめ役割分担を決めておくことが大事です。
- ・国府地区や各自治会において自主防災組織をつくっておくことと、住民構成を把握しておく必要があると思います。
- ・すべての住民が避難所へ行くわけではないので、避難所に集まった人どうしでできることをやっていかなければいけないことを共有したいと思いました。
- ・長船中学校の校内に備蓄倉庫が必要だと思います。また、中学校の水道はポンプアップでしょうか。停電したら水が出ない可能性がないでしょうか。施設の設備面についても確認する必要があると思いました。
- ・どこに何があるか、施設の状況などもよく把握する必要があると思いました。
- ・水害時の避難経路についても検討が必要だと思います。
- ・避難所に行くことができないなど、大きな災害を経験された方もいたので、様々な被害想定に応じた訓練等が必要だと思います。
- ・受付や案内など、自分にもできることがあると思います。みんなで過ごす場所なので、絶対に協力したいと思いました。
- ・実際に避難所に1泊して体験してみるといいと思います。
- ・地域、学校、市役所の連携が必要だと思います。
- ・各地区で自主防災組織が交流してレベルアップしてはどうかと思います。
- ・避難所までの経路確認、防災マップの作成・見直し、各地区の高齢者・障がい者等の支援などについて検討する必要があると思います。
- ・学校を避難所にするときは、学校に通っている生徒の意見を聞くべきだと思います。

3. その他意見、感想等ありましたらお書きください。

- ・避難所運営マニュアルのクイックマニュアルがあったらいいなと思います。
- ・前回初めての参加で、今回も参加させていただきました。役員でなければなかなか出席しない町内なので、町内の皆さんの意識改革に努めたいと思います。
- ・いろんな場面を考慮するとますます難しく、他の避難所の具体的事例を知りたいと感じました。
- ・避難所の開設に関わる手続きについての検討周知が必要。鍵、設備の使用可能範囲についての情報共有、最低必要な物資の確保(初動に必要なもの)などが必要だと思います。
- ・グループで話をするすることで、一人では思いつかなかった意見も出たので、今後も参加し意見交換をしたいと思いました。
- ・地区の防災組織が活動できるように、日々の取り組みが大切。市の予算を活用して備品を充実させたいと思います。
- ・事前に市と学校とが避難所としてどこまで利用できるかを打ち合わせておく必要があると思いました。
- ・災害を想定すると限りないですが、普段の備えやコミュニケーションが大切だと感じました。
- ・女性への配慮と同じように、男性にも必要な配慮がありました(男性は大体後回しでした)。

●第3回『避難所運営訓練』(瀬戸内市総合防災訓練)

(1)日時 令和6年11月17日(日)9:50~11:05(市総合防災訓練の開催時間は9:00~11:20)

(2)場所 長船中学校

(3)参加者数 約200名

(4)訓練スケジュール

時間	項目	内容
9:50~10:15	避難所レイアウト確認	<ul style="list-style-type: none"> ・9月28日(土)の研修時に考えたレイアウトをもとに、校内の各スペースを確認し、再検討する。 ・確認を通して気づいたことや改善点等を付せん紙に記入し、模造紙に貼る。
10:15~10:55	避難所設置・運営訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スペースを住民主体で設置する。 ・訓練を通して気づいたことや改善点等を付せん紙に記入し、模造紙に貼る。
10:55~11:05	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県災害派遣福祉チーム(岡山 DWAT)から講評をもらう。 ・市危機管理課からまとめ。

(5)内容 ・はじめに、9月28日(土)に各グループが考えたレイアウトをもとに市が作成した「暫定版レイアウト」を用いて、校内を巡回・確認し、避難所レイアウトについて再検討を行いました。また、確認を通して気づいたことや改善点等を付せん紙に記入し、模造紙に貼ってもらいました。



・次に、住民が主体となって「避難所設置・運営訓練」を実施しました。体育館内の居住スペース及び受付、物資置き場、食事スペース、情報掲示板について、第1回・第2回研修会の受講者の中からリーダーを決め、各地区が協力して設置に取り組みました。



・「居住スペース」については、通路を広くとるとともに、避難者ごとにスペースを割り当て、間仕切りを設けるなどプライバシーに配慮することが重要です。また、段ボールベッドには、エコノミークラス症候群や呼吸器疾患の予防、体温維持、睡眠の質の改善などの効果があります。特に、高齢者や障がい者などの要配慮者については寝床を整えたり、トイレに行きやすい場所を割り当てるなどの配慮が必要です。



- ・「受付」では、避難者に対して必要な支援を実施・要請するため、「避難所利用者登録票」を記入していただくなど、いち早く避難者情報を整理することが大切です。また今回は、中長期的な避難所運営を想定し、「入所受付」のほか、「退所受付」「来訪者受付」を設けました。



- ・「物資置き場」では、物資を分かりやすく並べてもらいました。また、避難所では不足しているものを把握し、速やかに要請することが大切です。あわせて、物資置き場の担当者には女性も配置するなど、避難者への心理的配慮が必要です。
- ・なお、避難所には入所者だけでなく、在宅避難者や車中泊避難者などが物資や支援情報を求めて来る場合があります。避難所は、地域で不自由な暮らしを送る被災者の支援拠点としての機能があることにも留意が必要です。



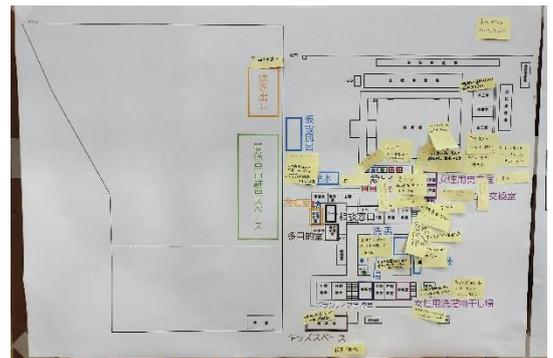
- ・「食事スペース」では、清拭消毒やごみの分別など、衛生面への配慮が必要です。また、避難所で支給される食事は、「肉類・揚げ物類が多い」「弁当が冷たく、食べると下痢をする」「菓子パン類が多い」など、高齢者には適さない場合があります。また、食物アレルギー等への配慮も必要です。避難者のニーズを把握し、食事の内容を見直していくことが大切です。



- ・「情報掲示板」では、様々な情報が掲示されるため、避難者に対して、どこに・どんな情報があるかを分かりやすく掲示することが大切です。今回は、「避難所のルール」「相談支援等」「罹災証明書等に関する情報」などの分類に分けて掲示していました。また、ふりがなをつけるなど、子どもや外国人でも情報を受け取りやすいように工夫していました。



- ・最後に、岡山県災害派遣福祉チーム(岡山 DWAT)から訓練講評をもらいました。要配慮者の居住スペースの割り当てや避難所で入口の段差解消などについて助言がありました。
- ・また、全体を通して気づいたことや改善点等を付せん紙に記入し、模造紙に貼ってもらいました。



【参加者が記入した付せん紙の内容】

- ・物資搬入の導線(トラックでの搬入)などを考える必要がある。
- ・小児用小便器や洋式便器を設置するなど誰もが使いやすいトイレにする。
- ・更衣室や授乳室が屋外にあるが、冬は対策が必要。
- ・仮設風呂の位置は中庭にするなど配慮が必要。
- ・キッズスペースが遠く、死角になるため心配。
- ・女性用洗濯物干し場にカーテン等の目隠しが欲しい。
- ・破損している場所や、段差のある場所があつてケガをする可能性があるので対策が必要。
- ・交流の場として足湯を設けてはどうか。
- ・くつ置き場が足りない。
- ・健康相談等に関する窓口が欲しい。
- ・充電スペースが必要。
- ・障がい者用スペースが金工室に割り当てられているが、机が邪魔になるかもしれない。
- ・ペットのトイレや食事のスペースが必要。

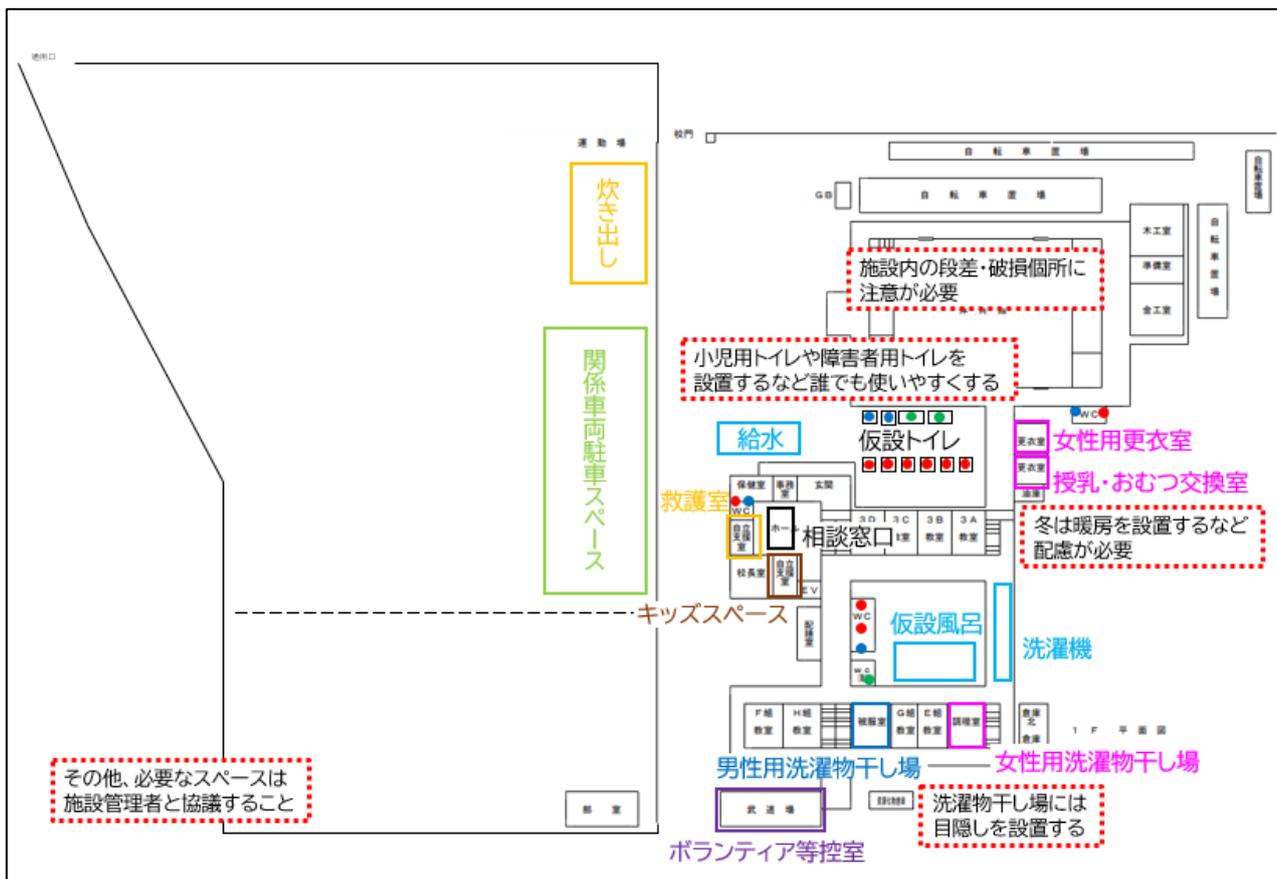
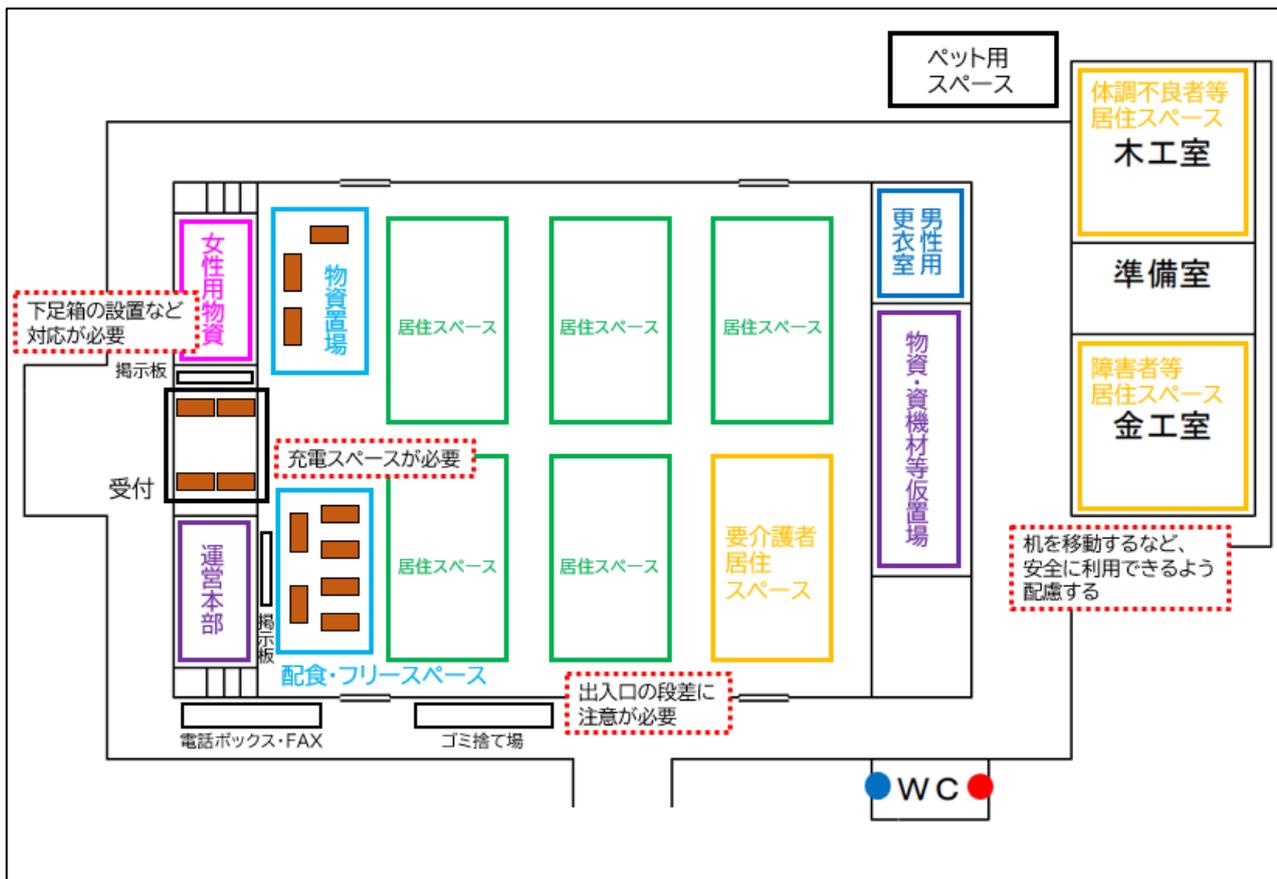
4 まとめ

訓練で出た意見を踏まえ、「暫定版レイアウト」を修正しました(p.12)。住民のニーズや避難所となる施設の実態を反映させたレイアウトを平常時のうちから作成することができ、円滑な避難所運営の実施につながる有効な取り組みとすることができました。

なお、本事業において作成したレイアウトは、あくまでも現時点でのものとなります。今後は、学校区等単位の自主防災活動を展開するなかで、地域において必要に応じて内容を見直すなど、より良いレイアウトとなるよう努めていただけますと幸いです。また、市では、学校区等単位の自主防災組織に対して、研修・訓練の実施や資機材整備等に係る費用を助成する補助金を整備していますので、有効に活用してください。

引き続き、住民が避難所運営を主体的に実施できる体制の整備に向けて、地域、学校(施設管理者)、行政が連携した取り組みを展開していきたいと思えます。

*「暫定版レイアウト」(訓練で出た意見を反映させたもの)



令和6年度 学区等における地域防災力向上事業 実施報告書

令和6年12月

発行 瀬戸内市総務部危機管理課

〒701-4292

岡山県瀬戸内市邑久町尾張300-1

TEL 0869-22-3904 FAX 0869-22-3299